

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	(2010年) 3月 放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 16日		2026年 3月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 17名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 16日		2026年 3月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 7日		

○分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個別療育において個々に伝えと受け止めて理解し気づきに つなげることも可能ですが、集団の中では他児童の目が気にな り、素直に受け止められなくなる場面もあります。個別療育で は個々に伝えられる時間と空間があります。個々の素敵な面を 伝えながら、自己否定を自己肯定感へとつなげています。	課題においても、できなかった点に視点を向けるのではな く、出来ている部分に視点を置き、前回と比べてどこが 進化しているかを具体的に伝えながら、出来ていない部分 を一緒に取り組む関わりを大切にしています。	事前にタイムスケジュールやルールを伝えることで、 それらを意識して活動してくれています。
2	個々の特性に合ったか関わり合いを考慮しています。 例えば、児童によっては『口出しせず・手出しせず』 の関わりの中で興味・関心事を広げて行ったり、自身から やってほしいことを伝えに来てくれる場面も増えていきます。 このように個々の特性に合わせて療育を個別ではさらに大切に しています。	登所時ひとり一人の児童に『今日も来てくれてありがとう』 『今日も楽しもうね!』と顔を見て体調や表情を伺いながら声 掛けを行っています。	日々楽しんでもらえるよう、児童の成長過程に合わせた 机上課題の工夫や、自由時間は興味関心事を広げる為 個々の好きなこと得意なことをさらにステップアップした 遊びの提供を行っています。
3	『やればできた!』『僕・私ってすごい!』と感じてもらえる 経験値を高めながら、自己肯定感につなげられる活動の提供を 行っています。	できていない面に視点を向けるのではなく、出来ている点 を前回とどの部分が上達しているかを、具体的な言葉で 伝え、出来なかった部分への意欲につなげています。	誰かと比べるのではなく、『君は君なんだよ』という事を 今後も児童にそして保護者の方にも伝えていきたいも思っ ています。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スタッフの人材育成	児童の成長段階に寄り添ったスタッフの療育向上も重要。	日々感じていること思っていることを言葉にし合える環境 づくりを大切にしています。その中で児童が登所してくる までの時間で日々ミーティングを行っています。
2	児童の進級に伴い、宿題や学習面もより難しくなってきたり る。学習面での対応は今後も課題である。	個々の学習面の遅れをどこまで対応してゆけばよいか課題と なっています。	学校担任の先生とも情報共有させていただきながら、個々 の児童の学習面や学校での様子を理解・把握してゆきたい
3	・送迎課題 車両やスタッフは増やしても送迎できる利用者数は限られてし まう。	安全に希望される時間での送迎には綿密なシフト調整が 必要。スタッフ間の情報共有を大切にしている。	送迎時の保護者対応や学校・事業所間での情報共有を密にす るために、日頃から言葉でのコミュニケーション面を大切に している。

公表

事業所における自己評価結果

(No.3)

事業所名 ほろろろろろ (放課後)

公表日 2026 年 5 月 1 日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境 体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		当日の利用児童の人数に 環境を調整している。	保護者との関係で仕方ない
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○	全体を見渡せる位置で 児童を見守っている。	職員は足りないかも。 人材募集している。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		視覚的ツール等取り入れている	換気や消毒の徹底
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		エアコンも含めて定期的に 徹底している。	換気や消毒の徹底
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		部室を築いて個別部室 を設けている。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		定期的な情報交換を行う モニタリングの元個別支援計画作成	評価を活用するのと 改善目標としている。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者への情報交換を 情報共有ソフト上にも 希望を反映している。	利用者満足度アンケート実施
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		月1回以上研修等を行い 資質向上に努めている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		業務改善のついでに 社員の意見交換している。	評価の活用は個人の 意見も取り入れる。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		月1回以上研修と講習会 出席者の研修費用を行う。	今後とも研修の開催を 実施。
適切な支	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムの作成は 個人の思いを尊重して作成している。	スタッフの思いを尊重して 作成している。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		スタッフ一人ひとりの意見も 感じているのを尊重している。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		ケース会議は定期的に行われ 行われている。	日頃からの個人の意見を 面談に変化にも確認している。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		スタッフから出てきた意見 を元に計画を作成	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		一冊の連絡帳を作り 個人にも確認している。	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		個々のスタッフの考えを 支援内容を検討している。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		スタッフ間で日頃からの 意見交換している。	声（個別・環境等） を考慮している。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		検討会は定期的に行なっている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		スタッフ一人ひとりの視点を大切に意見交換している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		1人ひとりの存在の大切さ、7人の意識を育む。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		記録作成時にも 今日感じていることを	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録内容を振り返ることも大切にしている。	
	23	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的なモニタリングを実施している。	不都合があれば、スタッフにも情報共有している。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		スタッフ間での周知を 行っている	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を育てるための支援を行っているか。	○		タイムスケジュールを先章で決める事で責任を押し付けず	自身で意思表示し決断する機会を大切にしている。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		見守りを含めた会議を定期的に行っている	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		学校・地域等との 情報共有を大切にしている。	情報共有し内容を スタッフ間でも共有している。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校との適切な情報共有を行っている	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		保護者や直接電話連絡 を行うことの重要性を認識している	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		情報内容を文書化している	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		必要は研修への参加はシフト調整している	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		夏祭りなどの地域の施設 を含めたイベントの実施。	地域の方への交流も 万が一の施設。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		協議会への参加は 大切にしている。	人員確保は専任 している。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		Hugと送迎時、面談 の機会大切にしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		属人への保護者の方 同士の参加は大切にする。	支援内容の明確化は より必要。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時にも丁寧に 説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		お母さんがある程度 迅速丁寧に対応している	改善したい内容等は 面談をきっかけにしている。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		情報共有を大切にしている	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	<input type="radio"/>		Hugとお遊びの時間等 近況の対応を心掛ける	時間を守る内容の 日程調整を行っている
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	<input type="radio"/>		年間程度 参加者が増えた	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	<input type="radio"/>		苦情やお困りの声はスタッフ 内へ迅速に対応している	個人情報に十分配慮 して対応
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	<input type="radio"/>		HPやインスタの情報を 取り上げている。	定期的に変更を努めている
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	<input type="radio"/>		ご契約の日にちも契約書と 交わしている。	日々考慮しながら 対応している。
非常時等の対応	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	<input type="radio"/>		保護者の声や困り声に 丁寧に対応している	内容によっては養育者へ も相談している
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	<input type="radio"/>		夏祭り等地域を会場に イベントを開催している。	ポスターやフライヤー等 事前で配布している。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	<input type="radio"/>		マニュアルは作成済みで 定期的な見直しを行っている	年度々での確認の 必要
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	<input type="radio"/>		避難訓練の実施は しております。	保護者への報告をもと 明確に行っている
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	<input type="radio"/>		アセスメント報告として スタッフへ周知徹底している。	定期的な確認の 大切。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	<input type="radio"/>		〃	〃
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	<input type="radio"/>		当日の利用児童の状況に 環境や療育を考慮して、 個々に対応している。	スタッフ間では意見を 伺い合っている。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	<input type="radio"/>		電話やHug等を主体として 伝えている。	内容によっては直接 お会いしている。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	<input type="radio"/>		ヒヤリハット事例は書式 にしている。	スタッフ間では周知徹底 に努めている。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	<input type="radio"/>		研修内容の一端には 実施している。	研修時内容の書式化 し、スタッフ間で周知している。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	<input type="radio"/>		年度からスタッフ間で 話し合いながら対応。	療育の観点から 相談している。	